



Basic認証利用ガイド

GMO CLOUD

1. はじめに

Infinito PLUSのウェブサービスではBasic認証(パスワード認証)を利用し、特定のファイルやディレクトリーに対してアクセス制限を行うことができます。

Basic認証利用ガイドでは **.htaccessiis** ファイルを使用した認証方法についてCONTROL PANELの設定方法から認証に必要なファイルの記述方法を説明いたします。

2. 制限事項

.htaccessiis ファイル、**.htpasswd** ファイルを使用した認証方法は、次の制限事項があります。

- ・ ユーザーアカウントは1つの「**.htpasswd** ファイル」に対し、3 ユーザーまで設定することができます。(4 番目以降のユーザーアカウントは無効になります。)
- ・ 認証機能を設定するファイルは、「**.htaccessiis**」のファイルになります(「**.htaccess**」ファイルを用いた認証の設定は不可)。
- ・ **大文字・小文字が区別されず**(設定を間違えるとエラーコード 500 が表示されます)。
- ・ CONTROL PANELで設定することができる認証方法とは異なる為、あらかじめCONTROL PANELで設定作業が必要です。設定作業を行っていない場合、正常にBasic認証を行うことができません。

※注意

Apacheの「**.htaccess**」ファイルで行うBasic認証(パスワード認証)と異なり、「**.htaccessiis**」のBasic認証(パスワード認証)は、1つの「**.htpasswd**ファイル」に対しユーザーアカウントは **3 ユーザーまでに制限**されております。

3. サイト初期設定

Basic認証を利用するにはCONTROL PANELのウェブ管理のセキュリティー画面で[匿名アクセス]を許可し、[基本認証]を行わない設定にする必要があります。

※注意

CONTROL PANELのセキュリティー画面で設定する[基本認証]は、Active Directoryを利用した認証機能になります。「.htaccessiis」ファイルで設定するBasic認証(パスワード認証)を使用するには、Active Directoryの認証機能をオフ(無効)に設定する必要がある為、あらかじめCONTROL PANELでセキュリティー設定を変更する必要があります。

- CONTROL PANELにログインし、[ドメイン名] - [ドメイン管理] を選択します。表示されているドメインリストの中から、Basic認証を利用するドメイン名を選択します。

The screenshot shows the main dashboard of the InfinitoPLUS Control Panel. The 'ドメイン名' (Domains) section is highlighted with a red box, and the 'ドメイン管理' (Domain Management) link is also highlighted with a red box.

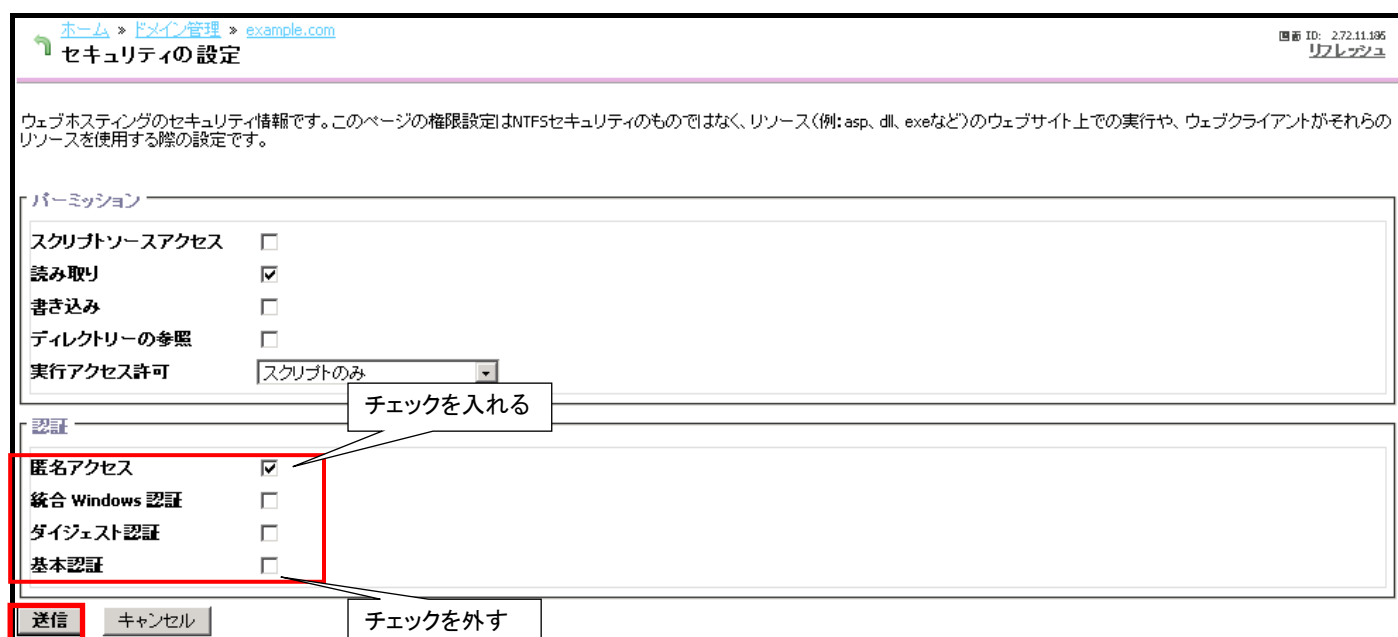
The screenshot shows the 'ドメイン管理' (Domain Management) page. It displays a table of domains with the following columns: ID, ドメイン名 (Domain Name), ウェブホスティング (Web Hosting), メールホスティング (Email Hosting), コンテンツ管理 (Content Management), 同期 (Sync), and 有効 (Valid). The 'example.com' domain is highlighted with a red box.

ID	ドメイン名	ウェブホスティング	メールホスティング	コンテンツ管理	同期	有効
1561	example.com	IIS ウェブサイト (ウェブスペース)	qmail	コンテンツ管理を可能にします	はい	はい
1562	shop.example.com	IIS ウェブサイト (ウェブスペース)	qmail	コンテンツ管理を可能にします	はい	はい

2) [セキュリティの設定]を選択し、開かれた画面にて画面左下の[編集]ボタンをクリックし、設定画面を開きます。



3) [匿名アクセス]にチェックを入れ [基本認証]のチェックを外し、[送信]ボタンをクリックします。



4) 変更が完了すると、以下のように表示されます。



4. .htaccessiis、.htpasswd ファイルの作成

Basic認証を利用するためには、.htaccessiis と .htpasswd の 2 つのファイルを作成する必要があります。各ファイルの役割は以下のとおりです。

- ・ .htaccessiis … Basic認証の基本となる設定ファイル。
- ・ .htpasswd … Basic認証に利用するユーザー名と暗号化されたパスワードのリスト。

※注意

InfinitoウェブサービスのBasic認証(パスワード認証)で用いる設定ファイルは、『.htaccessiis』となります。Apacheで 사용되는、『.htaccess ファイル』とは異なりますのでご注意願います。

.htaccessiis ファイルや .htpasswdファイルはテキストエディタなどで作成可能です。Windowsマシンなどの場合、『.(ドット)』から始まるファイル名は作成することができませんので、『htaccessiis.txt』といった別名でファイルを作成し、ファイルマネージャーや FTP でファイルをアップロード後に名前を、『.htaccessiis』に変更してください。

4.1 .htaccessiis の記述方法

ディレクトリーに対してBasic認証をかける場合、Basic認証をかけたいディレクトリーに次の内容の .htaccessiisファイルを設置します。

```
AuthName "Please enter username and password"
AuthUserFile D:¥CustomerData¥webspaces¥webpace_xxxxxxxx¥...¥.htpasswd
AuthType Basic
Require valid-user
```

- AuthName** : 認証の際、表示するメッセージを指定します。半角の英数字が利用可能です。メッセージの中に、スペースを含む場合は『”(ダブルクォート)』で囲む必要があります。
- AuthUserFile** : 認証に利用するパスワードファイル(.htpasswd)を絶対パスで指定します(絶対パスの調べ方は後述)。
- AuthType** : 認証のタイプを指定します。**Basic** は .htaccessiis ファイルが設置されているディレクトリー以下すべてのディレクトリーに対して認証を行います。**None** は 上位ディレクトリーで設定された認証を無効にし、設置したディレクトリー以下のアクセス制限を解除します。
- Require** : 認証の対象となるユーザーを指定します。valid-user は全てのユーザーに認証の機会を与えます。通常これを選択します。

※注意

.htaccessiis の記述で大文字と小文字を間違えるとエラーとなりますのでご注意ください。

[絶対パスの調べ方]

絶対パスはお客さまごとに異なりますので、下記の手順にてご確認ください。

1) CONTROL PANELへログインし、[ドメイン管理] -対象のドメイン名をクリックして[ウェブサイトの設定]を選択します。



[PHP対応]の項目右側のテストをクリックします。



2) 表示された画面の「APPL_PHYSICAL_PATH」の項目を参照します。

APPL_MD_PATH	/LM/W3SVC/_/root
APPL_PHYSICAL_PATH	D:\CustomerData\webspaces\webpace_ #wwwroot#
INSTANCE_ID	
INSTANCE_METADATA_PATH	(M:\APPS\IC\6665

注意:

セキュリティ上、.htpasswdファイルはウェブからアクセスされないディレクトリー(/private等)に設置することを推奨いたします。

その際、.htpasswdファイルに **Anonymous Webユーザーの読み取りを許可** してください。

[/private/]に.htpasswd ファイルを設置する場合の記述例:

D:\CustomerData\webspaces\webpace_ #private

上記の APPL_PHYSICAL_PATH
にてご確認ください

4.2 .htpasswd の記述方法

.htpasswdのファイルには『ユーザー名:暗号化されたパスワード』の形式で1行に1ユーザーずつ記入します。

```
taro:F82fiVO3OjKYg
jiro:bp7FQSVrIbIfM
hanako:IHU.d6MpM7tRU
```

※注意

Apacheの「.htaccess」ファイルで行うBasic認証(パスワード認証)と異なり、「.htaccessiis」のBasic認証(パスワード認証)は、1つの「.htpasswdファイル」に対しユーザーアカウントは **3ユーザーまでに制限**されております。4ユーザー目以降は無効になります。

☆パスワードを暗号化するには Htpasser 等のツールを使用するか、ウェブ上で簡単に.htpasswdを作成できるサービスがありますので、そちらを活用してください。

```
Htpasser
http://www.vector.co.jp/soft/winnt/net/se384800.html
```

作成した .htpasswdファイルを任意のディレクトリーに設置します。

注意:

セキュリティ上、.htpasswdファイルはウェブからアクセスされないディレクトリー(/private等)に設置することを推奨いたします。
その際、.htpasswdファイルに **Anonymous Webユーザーの読み取りを許可**してください。

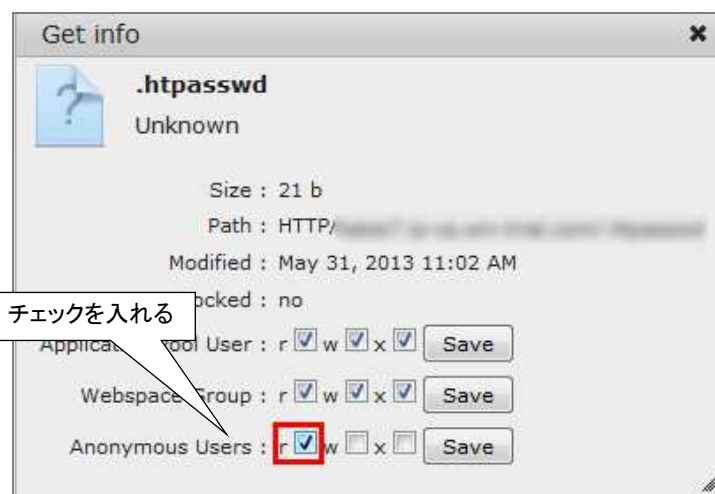
[.htpasswdファイルにAnonymous Webユーザーの読み取りを許可する方法]



- 1) ファイルマネージャーで.htpasswdファイルを設置したディレクトリーを開きます。
.htpasswdファイルのクリックしてから[Get info]ボタンをクリックします。



- 2) アクセス権の設定画面で、匿名ウェブユーザーの「r」(読み取り)にチェックし、[Save]をクリックします。

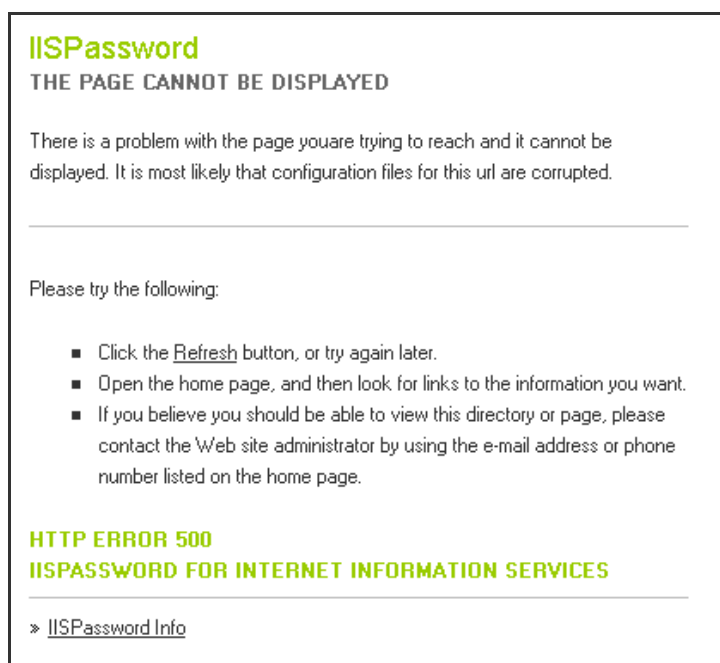


5. 認証画面について

.htaccessiis と .htpasswdのファイルを設置し、ウェブサイトアクセスすると、以下の認証画面が表示されます。



認証後、以下のエラー画面が表示される場合は、.htaccessiis と .htpasswdのファイルの記述が誤っている可能性があります。絶対パスの指定や、記述ミスが無いことを確認をお願いします。

**注意:**

.htaccessiis と .htpasswdのファイルを変更後、再度認証画面を表示するにはブラウザを一旦閉じて、再度ブラウザを開く必要があります。

6. リファレンス

`.htaccessiis` で使用できるディレクティブ一覧です。

※注意

ディレクティブの記述で大文字と小文字を間違えるとエラーとなりますのでご注意ください。

○AuthGroupFile

構文 `AuthGroupFile filename`

ユーザー認証のための、グループファイルを設定します。`Require group` を宣言したときのみ必要です。
`filename` は絶対パスです。

```
AuthGroupFile D:¥CustomerData¥webspaces¥webpace_xxxxxxx¥ . . . ¥.grouplist
```

グループファイルの各行は、グループ名: ユーザー ユーザー… と指定します。

```
group1: taro jiro  
group2: hanako taro
```

○AuthName

構文 `AuthName realm`

認証の際、表示するメッセージを指定します。半角の英数文字が利用可能です。スペースを含む場合は『”(ダブルクォート)』で囲みます。

```
AuthName "Please enter username and password"
```

○AuthType

構文 `AuthType type`

認証のタイプを指定します。**Basic** は `.htaccessiis` ファイルが設置されているディレクトリー以下すべてのディレクトリーに対して認証を行います。**None** は 上位ディレクトリーで設定された認証を無効にし、設置したディレクトリー以下のアクセス制限を解除します。

```
AuthType Basic
```

○AuthUserFile

構文 `AuthUserFile filename`

ユーザー認証のための、ユーザー一覧ファイルを設定します。`filename` は絶対パスです。

```
AuthUserFile D:\CustomerData\webspaces\workspace_XXXXXXX\*.htpasswd
```

○Require

構文 `Require user user-id user-id*`

`Require group group-name group-name*`

`Require valid-user`

ユーザー認証の際に、認証させるユーザーを指定します。第一引数により、パスワード認証の機会を与えるメンバーを指定します。

Require user

ユーザー単位で、認証の機会を与えます。パスワードファイルに登録されているユーザーのうち、`user-id` だけに認証の機会を与え、ほかは拒否します。

```
Require user taro jiro
```

Require group

グループ単位で、認証の機会を与えます。パスワードファイルに登録されているユーザーのうち、`group-name` グループに属している場合だけに認証の機会を与え、ほかは拒否します。`AuthGroupFile` であらかじめグループ定義を行う必要があります。

```
Require group eigyo soumu
```

Require valid-user

全てのユーザーに、認証の機会を与えます。通常、これを選択します。

```
Require valid-user
```

○Files

構文 <Files *filename*>...</Files>

<Files> ~ </Files> で囲まれたブロック内で指定される制限を、ファイル *filename* だけに適用します。

```
<Files "admin.asp">
    Require group Admins
</Files>
```

○FilesMatch

構文 <FilesMatch *regex*>...</FilesMatch>

<FilesMatch> ~ </FilesMatch> で囲まれたブロック内で指定される制限を、正規表現 *regex* にマッチするファイルだけに適用します。

```
<FilesMatch "¥.(aspx?|php|cfm|cgi)$">
    Require group Admins
</FileMatch>
```

※注意

リファレンスに関するご案内は行っておりません。関連書籍・関連ウェブサイトをご参照いただきますよう、お願いいたします。